

17. 令和5年度 静岡県てんかん地域診療連携体制整備事業活動報告

国立病院機構静岡てんかん・神経医療センター

院長：今井 克美
統括診療部長：臼井 直敬
地域連携係長：谷津 直美
医療社会事業専門職：橋本 睦美
専門職：小瀧 真

まとめ

- ・静岡県静岡医師会との間でてんかん病診療連携システムを構築・運用し、周辺地域への展開を進めている。県内県外を問わず、円滑に診療連携を行った実績のある施設、診療科、医師に対して、求めに応じててんかん診療連携登録証を発行している
- ・診療体制は例年どおりを維持し、2022年度の診療実績は前年をわずかに上回っていた。
- ・てんかんホットライン（電話もしくはメール）で当院受診歴の有無を問わずてんかんに関する相談を受け付け、災害関連は24時間対応している。
- ・医師、看護師、教育・福祉専門職を対象としたてんかんセミナーを当院もしくは静岡市内で現地開催し、県内の特別支援学校には出張セミナーを2回、静岡県民を対象とした市民公開講座と個別相談会を3回行った。
- ・てんかんを持つ人の就労を改善させる目的で、パンフレットを県内企業に郵送した。
- ・1次、2次、3次の縦の医療連携構築が進みつつあるが、3次施設間の横の医療連携の活性化も望まれる。

1. 静岡県の連携体制の概況

当院は1975年に国内で初めててんかんセンターを開設するとともに難病（てんかん）診療基幹施設に指定され、2025年にはてんかんセンター開設50周年を迎えることになる。静岡県のとてんかん地域診療連携体制整備事業は、てんかん患者が地域において適切な支援を受けられるよう、てんかん診療における地域連携の在り方を提示し、てんかん拠点医療機関間のネットワーク強化により均一なてんかん診療を行える体制を整備するために、2015年から厚労省と県の事業として継続している。

静岡県では、静岡てんかん・神経医療センターを拠点に、西部の総合病院聖隷三方原病院、中部の静岡済生会総合病院、はなみずきクリニック、東部の伊豆医療福祉センターなどの医療機関と、静岡県健康福祉部障害者支援局長、静岡県健康福祉部障害者支援局障害福祉課精神保健福祉室長、静岡県精神保健福祉センター所長、静岡県西部保健所長などの行政担当者、てんかん患者、てんかん患者家族を構成員とする静岡県てんかん治療医療連携協議会が年に2回開催され、てんかん地域診療連携体制整備事業が進められている。

静岡市静岡医師会と当院を含めた静岡市内の病院とのてんかん病診療連携システムを2021年12月14日に開始し、その内容を静岡市静岡医師会ホームページ内のイーラーネット医療連携システムにて公開し、継続運用している。てんかん患者の静岡市葵区および駿河区における医師会会員からの当院へのご紹介と、病状の安定しているてんかん患者さんの当院から医師会会員への情報提供・戻し紹介のためのクリニカルパスが運用開始となり、静岡地区の連携体制を強化している。

近隣の二次医療機関訪問によるてんかんに関する病病連携のための意見交換会を2回施行した。

病病連携促進事業 ※病病連携について意見交換を実施

訪問日	医療機関名
2023年12月12日	焼津市立総合病院
2024年1月16日	島田市立総合医療センター

静岡てんかん・神経医療センターてんかん科との間で円滑に診療連携が行われてきた医療機関、診療科、医師について、2020年よりお申し出に応じててんかん診療連携登録証を発行することで、てんかん患者が安心して連携医療機関を受診できるような取り組みをしている。

2. 活動状況

診療体制

てんかん初診外来は小児科・精神科・脳神経内科・脳神経外科医師が小児成人合わせて4-6名/日の診療予約を受け付けている。初診外来を通さずに初診前電話相談を通じての直接入院や、てんかん重積治療や長時間脳波等目的の検査入院も受け入れており、迅速な初診対応ができるように体制を整えている。

てんかん再診体制は4-7名/日の医師が診療し、成人てんかん医と小児てんかん医はともに毎日診療を行っている。定期的な当院通院に加えて、患者の状態に応じて地元の病院・クリニックと連携して当院受診を半月から1年に1度の検査時や状態変化時のみとするなど、様々な診療形態を提案している。

てんかん科の常勤医師は約25名（うち、てんかん専門医14名、神経学会専門医8名、小児神経専門医4名、脳神経外科専門医3名）で、てんかん院内認定看護師、薬剤師、作業療法士、理学療法士、言語聴覚士、心理療法士、ソーシャルワーカー、保育士、放射線技師、管理栄養士、臨床検査技師と共に包括的なてんかん診療に取り組んでいる。

診療実績

外来初診てんかん患者数は、2022年度は1200名/年（小児420、成人780）で、前年度から43名増加し、てんかんと神経難病を合わせた当センターの紹介率は81.8%で、前年度から28%増え、外来再診患者数は95.8人/日（小児10.1、成人85.7）で前年度の96.8名/日とほぼ同じであった。患者の居住都道府県別の割合は、（初診、再診、新入院）別に、静岡県（44.3、68.1、22.7%）、神奈川県（16.3、6.9、17.6%）、愛知県（8.5、6.0、9.1%）、三重県（4.4、2.6、6.6%）、東京都（4.3、3.4、7.1%）、岐阜県（3.7、1.7、6.5%）、大阪府（2.8、1.7、2.2%）、長野県（1.8、1.8、2.7%）、山梨県（1.8、1.7、2.0%）、埼玉県（1.4、1.7、3.3%）、兵庫県（1.3、0、2.4%）など東海道と周辺地域が多数を占めるが、日本全国及び中国など外国からの患者も受け入れた。

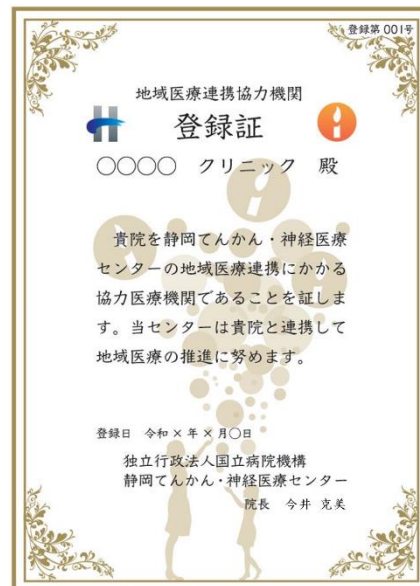
てんかん病棟新入院患者数は2022年度2821名で前年度より22名増加し、ビデオ脳波モニタリング患者数は2145名（小児1689、成人456）/年で前年度から32名増であった。

てんかん外科治療は、2022年度は71名で、前年度69名とほぼ同じであった。・側頭葉切除は25例（前年度24例）、側頭葉外皮質切除は22例（前年度20例）、多葉離断・切除4例、半球離断・切除4例、脳梁離断2例などであった。

てんかんの食事療方は2-42歳の27名に継続中で、食事療法の内容はケトン食17、修正アトキンス食9、低炭水化物指数食1である。

相談事業

厚生労働省てんかん地域診療連携体制整備事業のてんかん診療支援コーディネーターとして6名（常勤5名、非常勤1名）の認定を受け、てんかんホットライン（専用電話回線、専用電子メール）等からの相談に対応している。てんかんホットラインでは、当院受診歴の有無を問わず、患者や家族、医療・福祉関係者からのてんかんに関する相談を国内・国外から受けている。専用電話回線による相談受付は平日9~17時に実施し、時間外と土日祝日は急ぎの場合のみ当直師長が対応している。地震などの大規模災害時には災害関連の相談は24時間受け付けとし、能登半島地震関連では1月2日から実施している。電子メールは必要に応じてメディカルスタッフの協力を得ながらてんかん専門医が対応している。2023年4-12月における相談者の年齢、居住地、相談内容は表のとおりである。



件数

患者年齢

	0-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳～	不明	合計
2023年度	32	29	19	31	34	27	19	192	83	11	121	598

地域別件数

居住地

静岡県内	静岡県外	海外	不明
46	443	19	90

相談内容
(重複記載)

相談内容	受診相談	病状治療相談	運転免許・資格	社会制度・保険	就労雇用進路	結婚妊娠出産	日常生活対応等	学校等病名告知	他医療機関紹介	Dr・SWより	その他	合計
相談内容	受診相談											
2023年度	156	150	17	16	6	1	307	0	0	9	0	662

相談後の対応方法 (重複記載)

相談後の対応	相談のみ	当院受診・直入	当院受診検討	医療機関紹介	その他	合計
2023年度	464	75	56	75	9	679

研修事業

当院では医療関係者（医師、看護師、臨床検査技師等）および、福祉・教育等の専門職を対象としたてんかん研修セミナーを毎年してきた。COVID-19 流行の始まった 2020 年からは開催を見送っていたが 2022 年秋から順次再開し参加者からも好評であった。

医師・看護師を対象とするてんかん学研修セミナー

開催日	研修会	内容	参加者
2023年 9月15-16日	小児てんかん学 研修セミナー	医師、保育士、ソーシャルワーカーによる講義 (対象：医師)	19名 (対面)
2023年 10月12-13日	てんかん看護 セミナー	医師、看護師、保育士、作業療法士、心理療法士による講義 (対象：看護師)	32名? (対面)
2023年 11月18日	成人てんかん学 研修セミナー	医師による講義 (対象：医師)	26名 (対面)

教育・福祉専門職対象のてんかん研修セミナー

開催日	研修会	内容	参加者
2023年8月24日	小児てんかん 専門職セミナー	医師、看護師、保育士、理学療法士、心理療法士による講義	40名 (対面)
2024年2月15日	成人てんかん 専門職セミナー	医師、看護師、作業療法士、薬剤師による講義	33名 (対面)

特別支援学校職員などを対象にてんかん発作への対応等に関する講演会を静岡県内の特別支援学校において不定期に行った。

学校関係の講演会

開催日	学校名	内容	参加人数
2023年 8月30日	静岡県立西部 特別支援学校	・てんかんとは（医師） ・てんかん発作の対応と実演 （院内てんかん認定看護師）	60名 （対面）
2023年 5月30日	静岡県養護教員 6年次研修	・てんかんと頭部外傷における 救急処置（医師） ・てんかん発作の対応と実演 （院内てんかん認定看護師）	13名 （Web）

啓蒙活動

静岡県西部、中部、東部地域において年1回、てんかんについての市民公開講座とてんかん専門医による個別相談会を日本てんかん協会静岡県支部との共催で行っている。

市民公開講座（個別相談会）

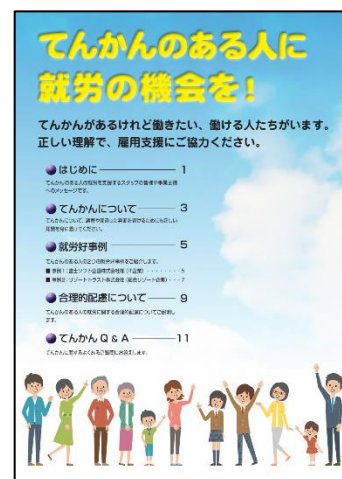
開催日	対象	開催地	内容	参加人数
2023年 9月3日	静岡県民	清水市	講演会 （個別相談）	37名（5件）対面
2023年 11月12日		浜松市		13名（3件）対面
2024年 1月14日		沼津市		38名（4件）対面

てんかん研修セミナーや各種講演会に参加できない人のためにホームページ上にてんかん情報センターを開設し（<https://shizuokamind.hosp.go.jp/epilepsy-info/>）、疾患の説明から日常生活の過ごし方に至るまで幅広い内容の情報とQ&Aを公開している。

てんかんを持つ人の就労を支援するために作成したパンフレットと動画をてんかん情報センター内で閲覧をできるようにするとともに、パンフレットについては静岡県内の主要企業100社の人事課に送付し、静岡県庁には訪問企業への配布を依頼した。

てんかんの啓発は病院の中でできることは限られるため、町の中に出て行って積極的に活動することが重要と考え、静岡市中心部の青葉シンボルロードで開かれる静岡市主催の心のバリアフリーイベントに参加し、当院のブースにて一般市民を対象にてんかんについての啓発活動を行っている。新型コロナウイルス流行と雨天により3年間開催できなかったが、今年度は2024年3月23日に開催予定である。

静岡県藤枝市のプロサッカーチーム藤枝 MyFC は藤の花のパープルをイメージカラーとしていることから、当院のてんかん啓発運動とのコラボを2022年から始めている。ホームゲームの日には試合会場にてんかん啓発のブースを設置し、てんかんに関するパンフレットとパープルデーに関するグッズを配布している。



パープルデー関連では、例年2月下旬から3月26日までの間、静岡市役所葵塔のライトアップを行っている。点灯開始日には市役所前にてライトアップセレモニーを行い、道行く人たちにてんかん啓発のためのパンフレットとグッズを配布している。新型コロナウイルス5類移行後初めての今年度は演奏会や大道芸のパフォーマンスも加えた院内セレモニーも3月26日に予定している。



今後の課題

当院はてんかんに関する医療資源に恵まれており、より多くの患者さんにご利用いただきたいと考えており、1次・2次・3次医療機関の間の縦の診療連携の強化を進めたい。3次医療機関においても、患者の年齢、診療科、検査体制、外科や食事療法への対応、包括医療など、施設によって得手不得手な分野があり、3次医療機関の間での診療連携の活性化も望まれる。